

浄華院じやうけ びんは京極きやうごく とほり通今出川の南にあり、浄土四本寺の其一なり。本堂には元祖法然上人はふねんの像を安置し、阿弥陀堂の本尊は恵心ゑしんの作なり。「当院むかしは天台宗にして慈覚大師じかくの開基とぞ、初の地は土御門通つちみかど（今の上長者町）烏丸からすまるの西にあり、内裏ないだいに近きによつて内道場ないだうぢやうと称せらるる故に山号なし」中興は法然上人はふねんより第五世向阿上人かうあなり、俗姓は源氏にして武田安芸守時綱あきのかみときつなが子なり、旧は園城寺をんじやうじの住侶浄華房証賢ぢゆうりよじやうけばうしやうけんと号し、弘安十年発心して離山あり、洛陽花開院らくやうけ かいあんに隠れ、其後当院を開基す。

身代不動尊「当院に安置す、いにしへ三井寺の智光法師ちくわう重病をうけしとき、安陪晴明あべのせいめい諸神に祈りて曰、もはや命終の期来れり、徒弟の中に身代りに立べき僧ありやと問ふ。時に弟子三十六人の内聖空しやうくうという僧出て、われ師の身代になりて命を断べきといふ、其とき聖空しやうくうが常に持念しける不動尊夢中に示現して宣ふやうは、汝が誠心を感じてわれ又聖空の身に代に立べきと告給ふ、忽師の房智光法師ぼうちくわうも病難を免れ全身となる。今に靈験いちじるし」